

新島村食育推進計画（第三次）案に対するご意見について

1 意見の概要

（1）新島栄養・食生活ネットワーク会議

開催時期：令和 3 年 1 月 25 日（月）

開催方法：感染症拡大予防のため、対面から書面に変更

開催内容：食育関係団体等の委員から案について意見をいただく

（2）パブリックコメント

募集期間：令和 3 年 1 月 25 日（月）から令和 3 年 1 月 29 日まで（5 日間）

周知方法：広報にいじま 1 月号および新島村役場ホームページに掲載

防災無線（令和 3 年 1 月 25 日定時放送）

意見提出方法：新島村さわやか健康センターまで持参または FAX にて

（3）新島村食育推進計画策定委員会

開催時期：令和 3 年 2 月 18 日（木）

開催方法：感染症拡大予防のため、対面から書面に変更

開催内容：食育関係団体等の委員から最終案について意見をいただく

2 意見の内容：20 件

（学識経験者 2 件、行政機関 4 件、村議会議員 2 件、教育機関 4 件、医療機関 1 件、福祉機関 7 件）

No.	該当箇所	ご意見	ご意見に対する考え方
	ページ		
1	P.4 P.6	第二次計画で、子どもステージ・大人～高齢者ステージで目標を設定している。それについての評価が今回の P.3～6 に書かれているが、もう少しわかりやすくするために、第二次の P.7 の表を活用して評価できると良い。 P.4：6 の表が少しわかりにくい。 ・例えば、子どもステージ「簡単な栄養バランスを知っている」目標値は前回結果より 1	最終案では、P.4、P.6 の最終結果につきまして、より見やすくするため、細かい数字を設定していた表を省き、第二次計画の基本目標と結果について、P.7 の表を活用したものを加えました。 また、第二次計画に設定した目標と実際の結果が比べやすいよう、目標値と最終評価の棒グラフの順番を変更させてい

		割増とグラフにあるが、下の表では78%である。 ・グラフ用の凡例がグラフのそばではなくて、表の下に書かれている。	ただきました。 ご指摘ありがとうございました。
2		本案中各計画項目が適切に設定されていると考えます。本案通り策定されることに賛成です。	ご意見ありがとうございました。
3	P.9	保育ステージ「保育園食育教室」取り組みの内容“匂って”は「嗅ぐ」と同意義語で使用していると思われませんが、一般的には、方言として考えられており、公的な計画には「嗅いで」の方が適切ではないか？	ご指摘の通り、「匂う」よりも「嗅ぐ」が適切と考えられます。 今後は、子どもたちにも「匂いを嗅いでみて」と声掛けするよう、関係者で共有させていただきます。 ご指摘ありがとうございました。
4	P.11	大人～高齢者の食育の推進「高齢者配食サービス」取り組みの内容“形状”は、「食事」を修飾する語としては、違和感があります。栄養「や、調理法に配慮した」としては？	ご指摘の通り、「形状」より分かりやすい「調理法に配慮した」に修正しました。 ご指摘ありがとうございました。
5	P.12	地域との連携・食の提供者による食育の推進“郷土の伝承料理を途絶えてしまわぬような”「が」が適切ではないか。あるいは「途絶えさせ」を加えてはどうか。	ご指摘の通り、「が」が適切と考えます。「しまわぬ」ではなく、より分かりやすい「させない」に修正させていただきました。ご指摘ありがとうございました。
6	P.18	参考資料2 <u>平成2年</u> 10月実施「新島村の子どもの食生活実況調査」 <u>平成2年</u> 10月実施「新島村の子どもがいる家庭の食生活実況調査」より ⇒令和ではないですか？	ご指摘感謝いたします。 訂正させていただきました。
7	P.39	地場産食材の調理については、小中学校の調理実習でも行っていますが、給食センターの献立にもあります。給食センターにはきちんとしたレシピがあると思いますので、地場産食材をはじめ、和食のレシピを村民のみなさんにご紹介できるといいなと思います。方法としては、健康センターと教育委員会と連携し、広報などに掲載できるのではないのでしょうか。	ご意見ありがとうございます。 この件につきましては、昨年より栄養士業務連絡会の場でも検討しております。村内各給食施設のレシピを広く村民のみなさまにお届けできることを実現できるよう、今後、紹介媒体や方法について検討いたします。

8	P.35	<p>診療所では、生活習慣について携わる場 が、大人～高齢者に関して多くあるもの の、栄養や運動のことで会話する時間 についての制約が多いのが現状です。</p> <p>啓発活動をDVDを用いたり集団の教室 で、管理栄養士や理学療法士と関わる ことが出来れば、今後、予防・治療の 一担になると思います。（特に高血圧・ 高脂血症・慢性腎臓病（CKD）の重 要性は日々の診療にて感じます）</p> <p>医療と保健と一緒に医療費削減・健康 維持に向けて少しずつでもお仕事が 出来たらいいなと考えています。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>第三次計画では初めて医療に関する 調査項目を設定させていただき、塩分 摂取や野菜摂取など、日々の食生活の 積み重ねで改善が期待できる疾病が 多くを占めている結果を得ました。</p> <p>最終案では医療機関との連携の必要 性について加筆させていただきました。</p> <p>今後は医療（診療所）と保健（健康 センター）がより連携し、村の医療 費削減に寄与できるよう取り組んで いきます。</p>
9	P.5	<p>新島版食事バランスガイドを資料に 加えるのはいかがでしょうか？</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>P.5には注釈をつけて、P.17に参 考資料として追加しました。</p>
10	P.16	<p>新島村の食をめぐる現状と課題が よくわかりました。食育における発 達段階に応じた目標もわかりやすく、 指導しやすいと思います。</p>	<p>この表は、食育推進計画策定後に、 子どもたちの各ライフステージ目標 を達成するためのマニュアルとして、 新島村の保育園や各学校の先生方 に活用いただけるよう作成したも ののです。</p> <p>大変うれしいご意見をありがとう ございます。ぜひご活用ください。</p>
11		<p>新島村の全世代に対してアンケート 調査を継続し分析することで、食の 課題を把握し目標を設定しており、 具体的な施策も数多く、食育推進計 画としては大変評価できると思い ます。</p> <p>これらの計画をもとに、食の情報 の共有や村民への食に対する意識 を高めていかれると思いますが、 新島村においての高血圧・痛風 などの基礎疾患の医療費、小・中 学校の肥満率の高さなどが、食育 によって今後、改善されることを 期待いたします。</p> <p>また、近年自然災害や、コロナ ウィルス感染症など未曾有の事態 が起こり、備蓄やステイホーム など、めまぐるしく環境や生活 習慣も</p>	<p>計画案を大変深く読み込んで くださり、ありがとうございます。</p> <p>食育推進計画が策定されて10年 が経ちましたが、目標達成に至ら ない項目もあり、まだまだ食に 関する課題が多いのが現状です。</p> <p>取り組むべきことはたくさんあ るのですが、第三次計画では子 どもステージから食塩や野菜 摂取について考える機会を作 り、将来の医療費削減につな がるような長期的に継続でき る取り組みの充実、大人～高 齢者ステージでは、広く正し い情報発信を行うことを特に 意識した活動を展開していき ます。</p>

		変化しております。いずれにせよ、食は私たちの生きていく上でなくてはならないものであり、食育はいつ、いかなるライフステージにおいても必要なものだと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。	
12	P.16 P.12	<p>食育の基本理念大目標は「食を通し、心身ともに健やかで生命力にあふれる新島村の子どもを育み・・・」となっており、またこれらの基本理念を達成するためにいくつかの条件が設定されているが、一番大切と思われる「安心安全」な食材が求められていない。</p> <p>学校給食に使用されている食材や家庭で毎日食べている食材は本当に安全なのでしょうか？</p> <p>先日、地元で自家用野菜を作っている方々に話を聞いたら、「自分たちはできるだけ農薬や除草剤を使わないようにしているが、農協や給食センターに野菜を納品している地元農家の一部は農薬をふんだんに使っているので、心配」と言っていた。</p> <p>この基本理念の中にも住民へのアンケートで、新島村の食材を使うことを心がける人が58%もいるし、村も地産地消をうたっている。時には畑や給食センターで食材の残留農薬の検査をしてみたいかかでしょうか。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>P.16 の表は、子どもステージの食育指導に携わる先生方と目的・目標について共有できるマニュアルを想定したものです。</p> <p>おっしゃる通り、食に「安心・安全」は欠かせないものです。こちらに関しましては、P.12 地域との連携・食の提供者による食育の推進 の中に「食の提供者である教育関係者・農漁業者・食品関連業者等の連携が、新島村民の食生活を支えています」「新島村の健康や安心・安全に配慮した、食に対する情報や知識の提供を行い、総合的な食育を推進します」と記しております。</p> <p>農薬に関しましては、食品が原料のものもあり、農薬の全てが身体に良くない影響を及ぼすとは限りませんが、村民の皆さまに心配をおかけしないよう、農協やふれあい農園、給食センターと情報共有を行い、検討させていただきます。</p>
13	P.22	1日に必要な野菜量 350g について、教科書では緑黄色野菜 100g、その他の野菜・果物で 400g と指導しているので、イメージしやすく工夫できたらと思いました。	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>平成 29 年から、学習指導要領に食育は学校全体で取り組むことが明記され、積極的に取り組む先生が増えていることを実感し、感謝しています。村の指標と教科書の表記が少し異なる点に関して工夫いただけることは大変ありがたいです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p>
14	P.28	スマートフォン（ト）が抜けています。	<p>ご指摘ありがとうございます。</p> <p>訂正させていただきます。</p>

15		<p>住民の皆さんとお話する中で、一部の女性の方が「食事献立を作るのは女性、母親の役割」と考え、自分のことを後まわしにして日々頑張られている印象を受けます。</p> <p>食事は男女関係なく、自らが考え調理するのが当たり前になるよう、ジェンダーの視点があっても良いのかなと思います。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>おっしゃる通り、食事は男女関係なく、だれもが自分で考え、調理できることが望ましいです。</p> <p>村でも将来を担う子どもたちにはぜひ、そのような力をつけてほしいと考えており、ジェンダーの視点からも食育を意識して展開していきます。</p>
16	P.4 P.6 P.7	<p>最終案で追加された表（成果と現状）の並び順について、項目、現状値があって目標、目標値、調査結果とあるが、分かりにくいと思います。国の計画書の並び順を参考にしてみたいかがでしょうか。</p>	<p>ご意見、ご指摘ありがとうございます。</p> <p>国の食育推進基本計画や健康日本21に合わせて、「項目、目標、第二次計画策定時、現状値、目標値」に並べ替えました。また、並び順の変更に伴い、目標値と令和2年度の棒グラフの順番を変更させていただきました。</p>
17	P.7	<p>大人～高齢者ステージの基本目標の「野菜の活用」について、目標値が「現状維持以上」とある。減少傾向のため、と理由も記してあるが、現状維持以上ということは現状維持でも良く、そうすると現状維持のための事業計画になり、評価年に増加しないことは目に見えていると思いますので、少しでも増加することを目標に設定した方がよいのではと考えます。</p>	<p>ご指摘ありがとうございます。</p> <p>特に地場野菜の活用については、生産者の減少や高齢化もあり、現状維持も難しいと考えておりましたが、自家栽培や、いただきものの野菜も含めて考えれば地産地消に関する普及啓発を行うことにより、わずかでも増加する可能性があると考え、また、事業計画は増加を目標に置いているため、「現状より増加」に変更させていただきました。</p>
18	P.12	<p>3 地域との連携・食の提供者による食育の推進</p> <p>郷土の伝統料理が途絶えさせない取り組み →この場合は、<u>を</u>が適切と考えます。</p>	<p>ご意見ありがとうございました。</p> <p>仰るとおり、郷土料理は「途絶えさせない」として行動の対象、目的ですので、「を」に訂正させていただきます。</p>

19		<p>調理は誰でも出来るものと同時に、面倒なものでもあります。高齢化が進み、自分の身の周りのことが思うように出来なくなった方をどのようにサポートするか、本当に私たちが具体的に考える必要に迫られており、分かりやすく作られた食育推進計画を参考にしたいと思いました。</p>	<p>ご意見ありがとうございました。</p> <p>村としては、色々な理由で調理ができない時でも、少しでも身体の状態に配慮した食事が摂れるような環境づくりが求められていることを痛感しています。</p> <p>第3次計画では、子どもステージにおいての、各ライフステージ別の目指す姿を具体的に記しました（P.16）。大人ステージにおきましても、引き続き食のサポートや情報提供を少しでも充実できるよう活動してまいります。</p>
20		<p>パブリックコメント（意見募集）に多くの方がご意見下さり嬉しく思います。計画推進の励みと力強い後押しになります。</p> <p>食育の分野は長い目で地道に取り組むことが大切と思います。実践の環を広げていくことに努めましょう。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>村としても、多くのご意見をいただけたことは食育への関心をいただけていると考えています。</p> <p>5年ごとにご協力いただいている食育アンケートが3回分以上蓄積され、分析を行うことで、目指す姿と問題点が分かってきたところです。これからの5年間で問題点の解決に向けた取り組みを行い、その成果を検証し、次の計画につなげていきます。</p>